

身延町観光協議会と議員との懇談会

身延町議会では、身延町観光協議会（会長 佐野慈一）との懇談会を開催しました。設立や役割、事業内容などの説明をいただき、課題や要望などを伺いました。



懇談会の様子



身延町観光振興ビジョン



佐野慈一会長（中央）からの説明

日時 令和7年7月9日（水）

午後1時半～午後3時

会場 身延地区公民館 下山分館

参加者 団体7名・議員14名

観光課4名・事務局2名

設立と役割

これまで身延山観光協会、下部観光協会、本栖湖西部観光協会の3団体がそれぞれの地域と連携し、観光振興を図ってきたが、町全域の観光振興に関する団体はなかった。平成17年には身延町観光連盟が設立され、その後令和4年に身延町全域の観光業や商工業の振興を図る目的で身延町観光協議会が設立された。

当協議会は新たに策定された「観光振興ビジョン」に基づき、地域資源を活用することにより、各種団体が連携して地域観光を推進することを目的としている。

具体的な事業は

観光目的等が日々変化する中で、本町を訪れる人に満足していただくために町内の観光資源の有効活用を図っている。また、イベント情報や観光施設等への来訪状況等を共有するため、毎月定例会を開催している。

西嶋和紙の課題

現在、和紙製造組合員は7事業所で、一時期の20件から大きく減少した。パルプ原料の供給も減少したため原料部では地元の工場へ供給するほか、外注として稲ワラ・葦などをパルプ化するため、30社から受注を受けている。財源確保のためにも、より多くの受注に繋がる必要がある。

下部温泉郷の課題

昔から湯治温泉として歴史と伝統がある。昭和レトロな温泉街として復活し、インバウンドやリピーターの確保に繋げること。また先進地でもある富士河口湖町等の成功事例など情報収集し、共有化することもある必要である。

本栖湖西部の課題

平日客の50%が外国人（アジア圏）である。キャンプ場の利用はコロナ感染症以降減少しており、反対にコテージの利用は増加傾向である。

本栖湖エリアでは駐車場の確保（二次交通）が問題である。駐車場の整備について行政における対応を願う。

観光課 駐車場の確保について、本栖湖エリアは国立公園区域にあるため、開発行為に制限がある。町としても検討したい。